

編集後記

エジプトで30年間政権を握ってきたムバラク大統領が退陣しました。ほんの少し前には、ムバラク政権が2月に崩壊するなど予想もできなかったことだと思いますが、わずか1か月余りで、大変動が起きました。これまで報じられてきたように、この劇的な変化にはインターネットが非常に大きな役割を果たしました。ある意味ではインターネット革命といっても良いのかもしれませんが。インターネットでのデモへの集結の呼びかけに呼応して、民衆パワーが拡大し、最終的にムバラク大統領が退陣に追い込まれる様子は、これもまたインターネットをも介して世界中に発信されました。今回のエジプトに限らず、瞬時に情報伝達が可能なインターネットは現在の世界を動かしています。インターネットの影響力の大きさをしみじみ感じます。

インターネットは医学論文の分野でも劇的な変化をもたらしました。従来の紙媒体の雑誌に加えて、電子ジャーナルが広く利用されています。また、従来の紙媒体の雑誌では不可能であった、雑誌発刊前のネット上での論文公開も行われています。最先端の研究では成果の発表の早さが勝負となりますから、ネット上での掲載は非常に大きなメリットでしょう。このような中、日本消化器外科学会雑誌でもインターネットを利用した改良が進んできました。すでに2005年に日本消化器外科学会独自のオンライン・ジャーナルサイトを作成して、過去論文、編集後記を含めてすべて一般公開 外部サイトへリンクしてきました。このサービスには閲覧制限がなく、誰でも何時でも掲載論文を閲覧することができます。さらに、2011年1月には、本邦の医学系和文雑誌では初となる雑誌のペーパーレス化を行いました。これ以降の論文は、独立行政法人 科学技術振興機構のJ-STAGE 外部サイトへリンクに掲載されます。さらに、投稿形態も大幅に変化しました。従来は、論文をプリントして事務局に郵送していたものが、2010年1月には論文オンライン投稿・査読システムの導入により、オンライン投稿が可能となりました。さらにこのサイトは日本語で表記されており、本会はScholarOne Manuscriptsの日本語版の第1号ユーザーとなりました。

このように、日本消化器外科学会雑誌は、インターネットの進化に伴いさまざまな変化を遂げてきました。しかし一方、これまで毎月届いていたあの青表紙の雑誌がもう来なくなってしまうと思うと一抹の寂しさも感じます。が、これも時代の流れでしょう。ネットで溢れる情報の中、本誌が有用な情報ソースとして残っていくよう努力したいと思っています。

(渡邊 聡明)

2011年3月1日